

## 第2回徳島県教育振興審議会での主な意見(未定稿)

## 1 理念・体系等について

- (1) 少子化に対する教育をどうするか、日本は、徳島は、大変困った状況になっている。このことは喫緊の課題であり、「地域とともに、新たな価値を創造し、未来を切り拓く人を育てます。」という理念からは、特に今求められていることが含まれており、抽象的な文言ではあるが非常に感銘を受けた。
- (2) 「郷土への誇りと国際的な視野を持ち、社会に貢献する人を育てます。」との理念では、「生物としての人間という種は、自分の遺伝子さえ生き延びればいいんだ」との仮説があるが、「利己的な遺伝子から教育によって、利他的な遺伝子に育てましょう。」ということで、これは、教育全般に、徳島に、日本全体に通じる部分であり、この言葉は重要である。
- (3) 目標では、理念を実現するために、社会に貢献する人を育てられるよう「オンリーワン教育」として、徳島ならではの施策が出てくるよう期待している。
- (4) 本県の特徴として、高齢化の中においても、上勝町の例や、徳島の自主防災組織の動きが活発であることなどがある。本県の特徴を生かした徳島ならではの振興計画とすることが大事である。
- (5) 振興計画に、どのように徳島らしさを盛り込むかが大事である。
- (6) 理念にある「新たな価値の創造」は、非常に深い意味を持つ、そのために本県の強みは何かと考えると、「女性が輝いている県」というのも強み。自助、共助、公助の内、「共助の部分が特に活発な県」であるという強み。  
これらの強みをどう生かしていくかが大事である。
- (7) 理念、目標、方針の言葉からは、抽象的で何がオンリーワンかが伝わらない。  
「いけるよ！徳島」のように、訴求力があり、ビジョンがリアルに伝わる、ワクワク感が感じられるような表現にできないだろうか。
- (8) 基本目標レベルで「徳島」という言葉が出てくるべき。
- (9) 理念と目標の位置づけが逆ではないかと思う。
- (10) 「オンリーワン教育」とは、素晴らしいことだと思うが、理念等からは伝わってこない。

- (11) 国の計画に気を遣いすぎではないか。
- (12) 「オンリーワン教育」とは徳島県民が一体になって幸福を実感できるオンリーワン徳島を実現するための人材を育てる「オンリーワン教育」ではないか。  
こういった視点から整理すべきである。
- (13) 防災という言葉も基本方針とか、基本目標にも位置づけてこそオンリーワンというのが見えてくるのではないか。

## 2 生涯学習について

自分で課題を探求して、自分で解決する力を養成していくという教育が大事。  
生涯学習の基礎となる「学び続けられる教育」を公教育の場でしていかなければならない。

## 3 防災教育について

防災とともに災害に遭われた方を助けるとの観点の教育も大事にしてもらいたい。

## 4 グローバル人材の育成について

- (1) 「地域を愛し地域で活躍してもらいたい」「世界に羽ばたいてもらいたい」という相矛盾する希望がある。  
計画の策定にあたっては、グローバルとローカルの調和をどうとっていくかが重要である。
- (2) グローバル人材の育成では、成果指標が英語力だけではだめで、柔軟な思考力の育成等も必要である。
- (3) 上勝町の取組みは素晴らしいもので、上勝町は国際協力が盛んな地域でもある。  
過疎、高齢化、そこで高齢者の方がいきいきと働いている。  
途上国の方々にも共感できるものがある。  
このように、「徳島にも国際舞台に通用するものがある。これからも発掘できる可能性がある。」との夢や希望を持ってもらって、国際舞台と照らして郷土をみるということも大事ではないか。
- (4) グローバル化に関して、まずは徳島の潜在能力を把握・再認識して全国に発信する人材の育成ということも大事ではないか。

- (5) 国際化にあたっては、まず、自分の国、自分の地域を知るとというのが大事であるという教育を広めてもらいたい。

## 5 特別支援教育について

障害者教育の充実はずばらしいことだが、障害者教育を充実させればさせるほど、ノーマライゼーションとの調和が必要となる。

## 6 学校・家庭・地域の連携について

- (1) 今回の計画では、地域、郷土という言葉がたくさん出てきている。  
教育として、家畜や野菜が食材となって行く過程の勉強など、生き物としての実体験も大事にしなければいけない。  
本県には、農業、林業と触れ合う機会もある。  
生き物としての実体験、地域と自然が協働できてる、いい学習の場がたくさんある。子どもたちが小さいときから継続的に触れて、生活の一部として取り入れられるものがテーマとしてあって欲しい。
- (2) 明治以前、公教育として実施される前は、地域の中で地域に合う形の教育があったが、中央集権国家になったため均一の教育を受けられることとなった。  
地域で、次世代、継承者を育成してきたときに何を大事にしてきたかをもう一度長いスパンで見つめ直すことも大事ではないか。
- (3) 答申が出て、計画ができて、県から市町村、学校へも地域へも根付いていく方向で進んでいくと思うが、あまり地域にまで浸透していないのではないか。  
学校と親、家庭、地域、住民がどうつながっていくか、そういう場の増加が、子どもたちにとって大切ではないか。  
実際に地域に落としていく環境作り、マンパワーの視点が非常に大事で、次世代を作る子どもたちが、ワクワクするような内容の施策をお願いしたい。

## 7 人権教育について

- (1) 人権教育はすべての教育の基本である。徳島においては人を人として大事にするとの教育が県内どこにおいても行われてきたというのが徳島の教育のすばらしいところだと思っている。  
新しい振興計画の方針の中では、基本方針3で、「人権を尊重し、」という文言が「社会全体で取り組む教育」にかぶっている。  
これは、地域の教育において、横断的に、以前よりも幅広く人権教育への取組みを広げていくともとれる。  
学校・家庭・地域の連携で人権教育をより推進していく施策を是非組み込んでいた

だきたい。

- (2) 教員の資質の向上についても、人権教育の基本となる教員の資質を向上させる施策を組み込んでいただきたい。

## 8 進行管理・数値目標の設定等について

- (1) 目標の設定について前向きなのは、マンパワーと予算でできるが後ろ向きのもの、例えば、南海東南海地震の死者ゼロとの目標のように、非常に難しいが、それにチャレンジするのも大事ではないか。

後ろ向きなもの、数値化がふさわしいもの、難しいものについて十分な検討が必要である。

- (2) 計画がすばらしくても実現されなければ意味がない。

推進体制の中で、家庭、学校、地域がどう役割分担するか、市町村教委は、国は、予算は、実現させていくための施策があるのか、ということ、第3回以降の審議会でも再度協議をする場面があるとの認識でよいか。

## 9 その他

- (1) 学校は多忙でもあるが、最低でも管理職、これから管理職になる人は、うろ覚えでも教育振興計画の理念や目標の基本認識を言えることが必要。

- (2) 命の大切さを十分教えていただきたい。また、その根本となる、平和理念を盛り込んでいただきたい。